

## 次々世代の研究シーズを 産学官連携で探索

### 第3回YRFP移動体通信産学官交流シンポジウム2001の開催

恒例のYRFP移動体通信産学官交流シンポジウムが7月17日～18日に開催された。本年のシンポジウムでは、新しい試みとして大学の研究室が取り組む研究テーマの全貌を紹介する「大学研究室紹介」やTLOの活動を紹介する特別セッション、国内外から招聘した著名人の講演など、次々世代モバイル通信の研究シーズを探る多彩なプログラムが組みられ、多くの熱心な参加者を集めて熱気に溢れたシンポジウムとなった。

応募から採択した29件のテクニカルセッションの発表でも、ネットワークが統合的に高度化され、誰もがモバイル環境の中で自在にサービスやアプリケーションを選択できるユビキタスな社会の実現を予見させる研究が多く見られた。また、「Beyond IMT2000」と題した第一線の研究者によるパネルディスカッションも行なわれるなど、次々世代移動通信の研究課題を産学官連携で探る盛況なシンポジウムであった。

第3回YRFP移動体通信産学官交流シンポジウム2001

#### 招待講演



CATの周 総裁



ITUの Zhao 局長



スタンフォード大学の Luis Mejial 氏

招待講演では、最近中国は、次世代モバイル通信の標準方式にTD-SCDMAの採用を表明して注目を浴びているが、その中心の人物である、中国の大唐電信グループ・中国電信科学技術研究院(CATT)の周 震 総裁が、現在世界の関心の的となっている、中国の通信事情について講演を行い、同じくCATTの副総裁である 楊 毅剛 氏が、注目のTD-SCDMAの詳細を解説して大勢の聴取者を集めた。

その他の招待講演では、「The actual situation of telecommunications in the world」と題してITUの標準化局長の Houlin Zhao 博士が世

界標準化活動の現況について講演し、スタンフォード大学から招聘した Luis Mejial 氏は、スタンフォード大学における産学協調の状況を述べられた。また、今回のシンポジウムの招待講演者で唯一の日本人スピーカーである大星公二NTTドコモ会長は、「産学官シナジーと経済社会のパラダイム」と題して中国やその他の外国の例を引きながら、IT革命時代と言われる21世紀の競争を日本が勝ち抜くには、産学官の連携を強固にしたトータルでシステムティックな情報通信研究の取組みが早急に必要との指摘をされて大いに警鐘を発せられた。



CATTの楊副総裁



NTTドコモの大星会長

## 第3回YRP移動体通信産学官交流シンポジウム2001

### 特別セッション「研究室紹介」及び「TLO活動の現況」

昨今の研究開発での産学官連携に関わる情勢は大きな変化を見せている。大学ではTLO等の活動が盛んとなり、一方企業では技術革新と競合が激しさを増す中で、商品のライフサイクルは益々短くなり、限られた人的リソースで多岐にわたる新技術を開発する必要に迫られており、マンパワー不足の問題が深刻化している。

こうした情勢を踏まえて、シンポジウムでは初の試みである

大学の研究室紹介とTLO活動の現況に関する特別セッションが行なわれ、通信分野の有名大学より15件の発表があった。この特別セッションは初の試みではあったが、大学と企業との情報交流を盛んにすると共に、大学の技術移転を担うTLO活動の現況と問題点が明らかとなり有益なセッションとなり、今後のYRPシンポジウムの定番として定着する事も考えられる。



横浜国大 河野教授



電通大 三木教授

## 第3回YRP移動体通信産学官交流シンポジウム2001

### パネルディスカッション

有識者によるパネルディスカッションが2コマ行なわれた。初日には、米国を中心に活躍されている高名なベンチャーキャピタリストである原丈人氏を司会者に、招待講演者として来日されたスタンフォード大学の Luis Mejial 氏、東海大学総合科学研究所教授の 畚野信義 氏、元郵政省大臣官房技術総括審議官、現YRP推進協会会長の 麩 昭男 氏の計4名のパネラーによる「産学官連携の課題と問題点を探る」と題したパネルディスカッションが行なわれた。ディスカッションでは、問題を正面から捉えた辛口の直言が相次ぎ好評を博した。

2日目には、次々世代の移动通信技術研究の第一線で活躍す

る研究者である慶応義塾大学理工学部教授 中川 正雄 氏、NTT未来ねっと研究所・研究グループリーダー 梅比良 正弘氏、キャノン(株)プラットホーム技術開発センター通信技術開発部主席研究員 佐藤 英昭氏、独立行政法人通信総合研究所(CRL)横須賀無線通信研究センター無線統合ネットワークグループ主任研究員 ウー 剛氏の4名により中川教授の司会で「Beyond IMT2000」をテーマに議論された。研究の最前線で活躍されているパネラーの議論を通じて目指す次々世代の全体像がおぼろげながらも浮き彫りとなり、聴取者の興味を引きつけ、高揚したディスカッションとなった。



パネルディスカッション-1 (左上から) 原氏、畚野氏、Mejial氏、麩氏



パネルディスカッションで司会する中川教授

## 第3回YRP移動体通信産学官交流シンポジウム2001

### ポスターセッション



シンポジウムでは、ポスターセッションも行われた。



パネルディスカッション-2 (左から) 中川氏、梅比良氏、佐藤氏、ウー氏



シンポジウムの状況を



香川大学との質疑応答

# 5大学に約 30Mbpsの 高速リアル配信で中継

## IEEE1394を用いた高速多地点マルチメディア統合環境の実験

第3回 YRP移動体通信産学官交流シンポジウム2001では、会場の状況を約30Mbpsの高速通信でリアルタイム中継し、シンポジウムの参加者に近未来のブロードバンドマルチメディア通信の高品質な動画像伝送を体感させた。

これは高速通信網上でのMINE(Multimedia Integrated Network Environment)の研究を進めていた(株)オプトウエーブ研究所、

岩手県立大学、佐賀大学、電気通信大学、徳島大学、香川大学で組織された共同研究グループ、及び通信・放送機構(TAO)へYRP研究開発協議会事務局より協力を要請して実施したものである。MINEの共同研究はIEEE1394を用いた実験を行っており、その一つにデジタルビデオカメラ(DV CAM)映像・音声のリアルタイム配信システムがある。このシステムをシンポジウム会場の一つであるYRP

ホールに設置し、(株)オプトウエーブ研究所と前述の5大学へ中継を行った。

さらに、電気通信大学と香川大学の2箇所からは上り回線を用意して、両大学の様子をシンポジウム会場のYRPホールのプロジェクターで投影した。シンポジウム当日には、遠隔地から質問をするという場面もあった。

(株)オプトウエーブ研究所には機材一式の借用と、その

設置調整作業及び当日のオペレーション等も担当して頂くなど全面的なご協力を頂いた。特に戸倉部長、矢後氏、鷹野氏、寺田氏には事前準備と中継先との連絡調整等で多大のご尽力を賜り厚く感謝申し上げます。



MINEの共同研究の概要は下記の2つである。

1. 高速通信網(JGN)を用いて遠距離接続した構内網の実現と網特性の測定
  - ・ MINE-GW(JGN接続装置)の開発
  - ・ 網遅延測定、FTPデータ転送レート測定
2. 次世代構内網において利用可能なソフトウェアの開発及び調査
  - ・ DVデータ(IEEE1394)遠距離伝送(MINE-GWに実装)
  - ・ ビデオ電話(CU-SeeMe, Net Meeting等)





# Gateway to Wireless

## 欧州の移動体通信関連企業とモバ

今年の1月に横須賀リサーチパーク（YRP）とデンマーク・オルボー市のノヴィ・サイエンスパークは移動体通信の研究開発における交流推進について提携を結んだが、その提携に基づく第1回目のイベントとして6月にデンマーク企業9社が来日して19日に東京、20日にはYRPで、2日間にわたり2.5Gのブルートゥース、モバイル・アプリケーションなど、日欧の移動通信技術動向に焦点を当てたセミナーを開催した。

また、続いて9月にはWPMC (International Symposium on Wireless Personal Multimedia Communications)が同じくデンマークのオルボー市で開催される事から、2回目のイベントをWPMC '01の開催に併せて行う事が予定されている。



レセプションに出席の在日デンマーク大使



東京でのセミナーの様子



YRPセミナーの様子

東京とYRPで行なわれたセミナーは、在日デンマーク大使館とYRP推進協会、YRP研究開発協議会の共催で、WPMC '01 オーガナイズ・コミッティ、JETERO横浜の協賛と総務省、横須賀市、ARIB CIAJ 他の後援を得て開催された。

初日の東京の会場では、デンマーク企業9社が自社の技術について、600名の日本企業を中心とする参加者にプレゼンテーションを行った。熱心な質問も

多くあり、活発な応答で盛り上がるセミナーであった。

セミナー終了後にはレセプションが行なわれて、駐日デンマーク大使のピーターブルックナー氏もご挨拶されて出席者と親しく歓談された。

2日目のYRPでのセミナーは前日とは趣を変え「日欧の移動通信技術動向」をテーマに総務省移動通信課の山内課長補佐が「第3世代携帯電話の導入と第4世代移動通信システムの検

討について」、デンマークの5社からはそれぞれが「欧州における移動体通信の動向」についてプレゼンテーションが行なわれた。セミナーではIMT-2000以降の興味ある話題も出現して活発な質疑の応答があった。

本イベントの開催は、日本とデンマーク企業の交流の促進と、両国の相互理解と互いのビジネスチャンス作りに少なからず寄与できたものと思われる。

(別表にデンマーク参加企業を示す)



デンマークの企業との質疑応答風景

# less Europe

## イル・アプリケーションセミナーを開催

「Gateway to Wireless Europe  
欧州の移動体通信とモバイルアプリケーション」

主催者：デンマーク大使館、YRP推進協会、  
YRP研究開発協議会  
協賛：WFMC'01オーガナイズング・コミッティー、  
JETERO横浜  
後援：総務省、横須賀市、電波産業会、通信機械工業会  
NTTドコモ、KDDI、J-Phone、日本経済新聞社

### 来日したデンマーク企業名と分野

企業名	分野
Danish Wireless Design	2.5G(GPRS)、携帯端末開発
RTX Telecom	ブルートゥース、DECT、2.4GHzコードレスフォン
GoPinocchio	モバイルCRM、モバイル・ビジネス・インテグレーション
2B-mobile	コンサルタント、モバイル・インターネット
Think Smart	UMTS用コンテンツ開発、音楽/ビデオのストリーミング
Comitel	サービス・プロバイダー、コンテンツ・プロバイダー
ON-AIR	エンドツーエンド・ビデオ・ストリーミング・ソリューション
Tele Denmark Communications	通信オペレーター、モバイルインターネット
Resource Software Engineering	モバイルインターネットによるモニタ

## 「シームレス移動体通信への研究会」発足

関東総合通信局

関東総合通信局では8月8日、携帯電話やパソコン等移動体通信の異なるシステム間をシームレスにつなぐ実験設備「ワイヤレステストベッド」を構築するための調査研究会を発足させた。移動体通信では消費者がシステムの種類を意識することなく多様なサービスを受けられる環境づくりが課題となっており、今後益々移動体通信の需要が増加し、利用の多角化・高度化が進展するなかでシステム間の相互接続性が強く求められています。

この調査研究会のメンバーは、国立情報学研究所の羽鳥教授（YRP研究開発協議会



第1回調査研究会で挨拶される羽鳥座長

会長）が座長となり、YRP推進協会の舊会長をはじめ、横須賀市、YRP研究開発協議会の会員企業、その他から選出された方々が関東総合通信局より委員を委嘱されてい

る。この調査研究会の下にはワーキンググループが設置され、どんなアプリケーションを必要としているのかを踏まえて、異なるシステムの相互

接続に関する技術的課題を洗いだし、「ワイヤレステストベッド」を構築する際の仕様及び運用のあり方を調査研究する。調査研究は2年間を予定している。



YRPでは4番目に建設されたテナントビルとなるYRPベンチャー棟が竣工し、7月17日に落成披露式が行われた。ベンチャー棟は名前が示す通り主にベンチャー企業が入居するが、横須賀市が2Fの10室を借り上げた大学の研究室やその他の利用者に提供するスペース「横須賀市産学官交流センター」があり、北京郵電大学やその他複数の大学研究室の入居が予定されている。

これまでのYRPの研究活動は、既進出の大企業が主にシステムを中心とした研究開発であったが、ベンチャー棟の竣工によりそれら大企業の研究を補完する、活力とアイデアに満ち溢れるベン



チャー企業と先端的な研究に取り組む大学の研究室等が新たな仲間として加わることで、YRPの研究の幅を広げると

# YRPベンチャー棟 が竣工

## 募集開始後ほぼ1ヶ月で満床を達成

共に一段と活性化を進める事が期待できる。

ベンチャー棟の入居募集は、本年3月に行なわれたYRPのイベント「ベンチャーメッセ」で賃貸条件やベンチャー支援策等が発表されて開始されたが、募集開始後の僅か1ヶ月後にはほぼ満床となり急遽募集を打ち切ったほどの人気で、YRPブランドの高さを見せ付ける出来事となった。

披露式には、総務省大臣官房技術総括審議官 石原 秀昭氏、や 沢田 秀男 横須賀市長

をはじめとする行政関係のVIPと、企業からはNTTドコモの森永副社長をはじめYRP関係企業の方々、大学からは、YRP研究開発協議会のトレンド会議議長でもある、安田 靖彦 早稲田大学教授、同じくトレンド会議のメンバーである大阪大学 森永規彦 教授など多くの列席があり、加えて、同日に開催されたYRPのシンポジウムに招聘した海外からの賓客も大勢列席された国際的な披露式となった。

### 【入居企業の一覧】

#### 1F

・横須賀リサーチパーク推進協会

#### 2F

- ・通信・放送機構(TAO)  
(横須賀成層圏プラットフォームリサーチセンター分室)
- ・(株)ハイテック
- ・(株)構造計画研究所
- ・アカデミア交流センター  
(YRPアカデミア会員が打ち合わせやメールの送受信などYRPで自由に活動できる場所を提供)
- ・横須賀市産学官交流センター  
(北京郵電大学をはじめ複数の大学研究室の入居が予定されている)

#### 3F

- ・クイックシルバー・テクノロジー・ジャパン(株)
- ・アジアワン コミュニケーションズ(株)
- ・(株)プロムナード
- ・(株)NTT-ME
- ・ソニーエレクトロニクス(株)
- ・(株)ティー・エム・シー
- ・ドコモ・モバイル(株)
- ・(株)トヨシステムエンジニアリング
- ・(株)ステップ
- ・キャタブルトコミュニケーションズ(株)
- ・(株)ガイアネット
- ・(株)サイバネテック

#### 4F

- ・(株)アルファシステムズ
- ・ドコモ・テクノロジー(株)



# YRPソフトボール大会



出場 21チーム、総勢 352名が参加した第3回 YRPソフトボール大会が無事終了した。1ヶ月以上に及ぶ大会は、3連覇を目指す強豪『とらすたーず3』が初戦で敗れる波乱含みのスタートとなり、連日の熱戦が繰り広げられたが、決勝戦は女性エースピッチャーを擁する『フクロウズ』（オプトウェーブ研究所）と初戦で『とらすたーず3』をやぶり波に乗った『健康隊2001』（松下通信工業）の対戦となった。結果は、若さに溢れる『健康隊2001』が10対6で熱戦を制し、栄えあるYRP杯を手にした。



恒例のYRP夏祭りが8月3日（金）に開催された。会場のYRPセンター広場には日の落ちる前から多くの人々が集まり、舞台上では、YRP地域に勤務する人達で編成されたバンドの演奏や歌謡ショー、大声コンテストなどが行われた。大声コンテストでは飛び入り参加の女性が絶叫するなど大いに盛り上がり、クライマックスはやはりYRPに勤務の美女8名による圧巻のフラメンコ！舞台の周りは黒山の人だかりとなり、アンコールの大合唱が響きわたった。最後は豪華賞品の当たる抽選会が行われ、当選者が決るたび大きな歓声が沸き起こっていた。



## YRP夏祭り

【編集・発行】 横須賀リサーチパーク推進協会

〒239-0847 横須賀市光の丘8-3 TEL: 0468-40-4100 FAX: 0468-40-4101

横須賀リサーチパーク研究開発協議会

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5008 FAX: 0468-47-5010

(株)横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5000 FAX: 0468-47-5010 <http://www.yrp.co.jp>